



Support Our Kids ～ひとりじゃないよ



実施レポート

2011.7

主 催 Support our Kids ～ひとりじゃないよ 委員会
事務局 特定非営利活動法人 次代の創造工房

企画概要

東日本大震災によりお亡くなりになられた方々に対し、心よりご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。現在の痛ましく悲惨な状況下、生活する人達が復興を実感できるまではとても長い時間を要するでしょう。

そこでこの度、震災の苦しみを直接的に理解し合える日本とニュージーランド両国の行政関係者を含む有志が、日本の被災した子ども達を中心にニュージーランドへホームステイさせ、将来を担う子ども達を育成する一助とするために本チャリティーを開催いたしました。

チャリティー目的

1. 東日本大震災で被災した子ども達の日本からニュージーランドへのホームステイを進め、子ども達の文化・教育交流をはかります。
2. 地震で被害を受けた日本・ニュージーランド両国の児童養護施設へ寄附をします。

寄附先

日本：児童養護施設「一関藤の園」
ニュージーランド：児童救済施設「Cholmondeley」

実施概要

2011年6月24日（金） 19:30～22:30
会場：ANAインターコンチネンタルホテル東京

参加者数

660人

企画・主催

Support our Kids ～ひとりじゃないよ 委員会

後援

ニュージーランド大使館、ニュージーランド貿易経済促進庁、
ニュージーランド政府観光局、外務省

YELL FOR CHILDREN、オーストラリアニュージーランド商工会議所、
KEA JAPAN (Kiwi Ex-Pat Association)、
NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク、日本ニュージーランド経済委員会

協力

アディダスジャパン株式会社、アンズコフーズ株式会社、ウェスティンホテル東京、ANAインターコンチネンタルホテル東京、株式会社AKS、A Wines、Essentially Group、オリックスパファローズ、近畿日本鉄道株式会社、株式会社グッデイ、株式会社健康美人フォーラム、株式会社ゴルフパートナー、コンビタジャパン株式会社、The Kahala Hotel、The George、ザ・リッツカールトン東京、株式会社サンリオ、シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート、シェラトン都ホテル東京、株式会社ジョイトップ (Carol Priest Japan)、ゼスプリ インターナショナル ジャパン株式会社、テラスダウンス リゾート、デルタ航空、東京ガス株式会社、財団法人日本サッカー協会、ニュージーランド航空、Heineken、パークハイアット東京、バンコプ・ウェルスマネジメント・リミテッド、阪神タイガース、ビッグホリデー株式会社、Fine Wine Club、Federal Express、フォンテラジャパン株式会社、ブルガリホテル&リゾート、Millbrook、読売ジャイアンツ、株式会社読売情報開発、楽天イーグルス、株式会社リコー（50音順）

発起人

発起人 (敬称略・五十音順)

ニュージーランド

アルン・ナンギア	(ナショナルオーストラリア銀行東京支店 日本代表)
イアン・ケネディー	(在日本ニュージーランド特命全権大使)
エド・オーバリー	(ニュージーランド航空 日本・韓国地区 支社長)
シャノン・ウォーカー	(ニュージーランド政府観光局 PRエグゼクティブ)
ジョン・コンロイ	(ニュージーランド貿易経済促進庁 日本・韓国地域局長)
ジョン・カーワン	(ラグビー日本代表チームヘッドコーチ)
ジョン・ドエティ	(タイムアウトin NZ 設立者、テラスダウンス リゾート マーケティング部長)
ジョン・ハンドルビー	(ビーフ アンド ラム ニュージーランド 日本地区代表)
ティム・ウイリアムズ	(ウィン・イン・スタイル株式会社 取締役会長)
ティーン・サドラー	(アド・ネットワークス株式会社 代表取締役 兼 最高経営責任者)
デボラ・ヘイデン	(クレアブ・ギャビン・アンダーソン株式会社 東京事務所代表)
マーク・ケナリス	(フォンテラ ジャパン株式会社 代表取締役社長)
ミア・エヴァンズ	(バンコブ・ウェルスマネジメント・リミテッド ジェネラル・マネージャー)
ロバート・チェン	(ゼスプリインターナショナル ジャパン株式会社 代表取締役社長)
青島 俊徳	(オーストラリア・ニュージーランド銀行東京支店 CEO)
金城 誠	(タイムアウトin NZ 設立者)
	(アンズコフーズ株式会社 代表取締役社長)

日本

赤井 勝	(花人)
秋元 康	(作詞家)
浅野 秀	(株式会社フォーシーズ 代表取締役社長)
井田 義則	(いすゞ自動車株式会社 取締役会長)
伊東 香織	(倉敷市長)
伊東 信一郎	(全日本空輸株式会社 代表取締役社長)
氏家 正洋	(フェデラルエクスプレス 北太平洋地区担当副社長)
大里 吉	(株式会社アミューズ 最高顧問)
小倉 純二	(財団法人日本サッカー協会会長)
垣添 直也	(日本水産株式会社 代表取締役社長執行役員)
北牧 裕幸	(株式会社キューブ 代表取締役社長)
マリ・クリスティーン	(異文化コミュニケーター)
来栖 宏	(アゼリーグループ 理事長 医学博士)
小園 文典	(東日本電信電話株式会社 代表取締役副社長)
小林 哲也	(近畿日本鉄道株式会社 取締役社長)
小巻 亜矢	(NPO法人ハロードリーム実行委員会〈内閣府認証〉 代表理事)
小宮 山	(元プロ野球選手 野球解説者 野球評論家)
齋藤 真嗣	(ニューヨーク州 医師/腫瘍内科 感染症専門医)
坂井 信也	(阪神電気鉄道株式会社 代表取締役会長 阪神タイガース オーナー)
桜井 正光	(株式会社リコー 代表取締役会長執行役員)
篠塚 建次郎	(レーシングドライバー)
芝 幸太郎	(株式会社オフィスフォーティエイト 代表取締役社長)
島田 亨	(株式会社楽天野球団 代表取締役オーナー)
白石 康次郎	(海洋冒険家)
田川 博己	(株式会社 シェイティービー代表取締役社長)
舘 ひろし	(俳優)
塚原 善仁	(株式会社エフエム大阪 代表取締役社長)
辻 信太郎	(日本体操協会副会長、オリンピック男子体操メダリスト)
鳥原 光憲	(株式会社サンリオ 代表取締役社長)
鍋島 英幸	(東京ガス株式会社 取締役会長)
西山 広文	(三菱商事株式会社 代表取締役副社長執行役員)
野田 勝	(株式会社読売情報開発 代表取締役社長)
日野 皓正	(共立印刷株式会社 代表取締役社長)
富木 道臣	(ジャストランペッター)
福田 康夫	(株式会社エフエム東京 代表取締役社長)
丸山 邦治	(第91代内閣総理大臣 日本・ニュージーランド議員連盟理事長)
森 浩美	(株式会社丸山海苔店 代表取締役社長)
森 喜朗	(作家)
山崎 直樹	(第85代、第86代内閣総理大臣 日本ラグビーフットボール協会会長)
吉田 恒雄	(株式会社アップフロントグループ 代表取締役会長)
吉田 康	(特定非営利活動法人 児童虐待防止全国ネットワーク 理事長)
吉野 伊佐男	(株式会社フルボン 代表取締役社長)
秋澤 志篤	(吉本興業株式会社 代表取締役会長)
	(特定非営利活動法人 次代の創造工房 理事長)

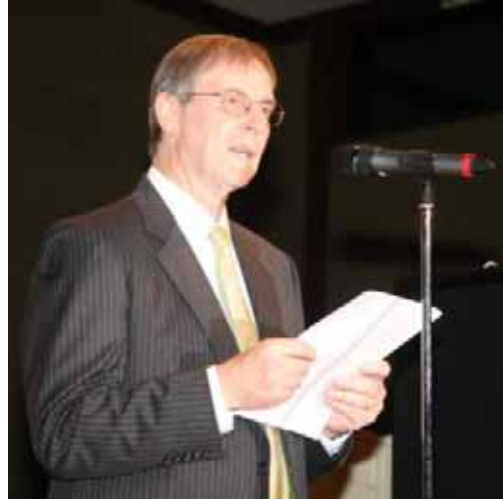
タイムテーブル

- 19:25 オープニングLIVE KATさん
- 19:35 司会挨拶 秋沢 淳子さん (TBSアナウンサー)
- 19:40 主催者挨拶
在日本ニュージーランド特命全権大使 イアン・ケネディー様
- 19:45 来賓挨拶
日本・ニュージーランド議員連盟会長 福田 康夫 様
- 19:50 発起人代表挨拶
株式会社リコー代表取締役会長 桜井 正光 様
- 19:55 乾杯
ラグビー日本代表ヘッドコーチ ジョン・カーワン 様
- 20:00 Nga Hau E Wha さん マオリパフォーマンス
- 20:15 茉奈 佳奈さんLIVE
- 20:25 ビデオメッセージ紹介
- 20:45 日野皓正さん・青柳 誠さんLIVE
- 21:00 チャリティー目的および寄附金使途説明
秋沢 志篤、ティム・ウィリアムズ
- 21:15 児童養護施設「一関藤の園」からのメッセージ
- 21:20 ラッフル (抽選) 当選者発表
- 21:30 スペシャルオークション
- 22:20 エンディングLIVE アーティストの皆さんで「We are the world」
- 22:30 閉会

当日写真①



KATさんオープニング
ライブ



イアン・ケネディ大使挨拶



福田康夫元首相挨拶



TBSアナウンサー
秋沢淳子さんの
司会で、開宴。



発起人代表挨拶（桜井正光様）



ジョン・カーワンさんによる乾杯



スペシャルゲスト マア・ノヌーさん



事務局よりチャリティー目的と寄附金使途を説明



当日写真②



歓談の様



当日写真③



館ひろしさん・ジョン・カーワンさんによるラッフル（抽選会） オリジナルTシャツもプレゼントしました



ラグビー、野球、旅行券など多彩なオークショングッズの数々



マイク・ロジャース司会で行われたライブオークション小宮山 悟さん、マア・ノヌーさんにもご登場いただきました

当日写真④



Nga Hau E Wha によるマオリパフォーマンス



茉奈 佳奈さんライブ



日野皓正さん青柳 誠さんライブ



エンディングはアーティスト皆さんによる「We are the world」

地震の被害状況

3月11日（金） 東日本大震災

〈被害者数〉（消防庁発表 5月26日現在）

死亡 15,073名(宮城8,986名、岩手4,479名、福島1,542名、その他66名)
行方不明 8,657名(宮城5,243名、岩手2,934名、福島 476名、その他4名)

〈学校関係〉（6月10日現在）

幼児・児童生徒・学生・教職員

死亡 600名

行方不明 131名

物的被害 7,998施設

うち、建替え・大規模修繕が必要な施設 193施設

岩手・宮城・福島から県域を越えて転学した幼児児童生徒数
11,729人(4月22日現在)

岩手・宮城・福島県で両親が死亡した（行方不明含む）子ども
201人（6月10日現在）



2月22日（火） ニュージーランド・クライストチャーチ地震

〈被害者数〉

死亡 182名(うち日本人28名)

〈学校関係〉

物的被害 163施設

家をなくした生徒 4,800名



Support Our Kids ホームステイプログラム

本チャリティーでは、東日本大震災で被災した子ども達にニュージーランドホームステイプログラムを提供いたします。

対象者：東日本大震災で被災した子ども達50名（希望者約250名）

期 間：7月27日から8月19日まで

協 力：東北リリーフホームステイ
タイムアウトイン ニュージーランド

内 容：現地校で勉強をしていただくほか、ニュージーランドのスポーツ体験やボランティア活動への参加をしていただく予定です。
帰国後に報告レポートを提出していただきます。



東北リリーフホームステイ
Tohoku Relief Homestay

夢と希望を、もう一度

東日本大震災によりお亡くなりになられた方々にご遺族の皆様に対し、謹んでお悔やみ申し上げます。また、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。

3月11日午後2時46分に発生した地震とその影響は、日本に大きな傷跡を残し、日本だけではなく、世界全体へ衝撃を与えました。9年前に東京でスタートしたジーザス ライフハウス インターナショナル チャーチは、日本のすばらしい若者の可能性と将来を信じているキリスト教の教会です。わたしたちの願いは、東北地方の人々が心身共に回復することを援助し、被害にあった若者たちに人生が変わるきっかけをプレゼントすることです。若者が将来の夢を届くお手伝いをしたい、その思いから東北リリーフホームステイという団体が、ジーザス ライフハウス インターナショナル チャーチによって設立されました。

今回企画した夏のホームステイプログラムの費用はすべて無料です。プログラム主旨に賛同する個人や団体からの寄付金により可能となりました。ご賛同やお申し込みはこちらのメールアドレスへご連絡ください。info@tohokureliefhomestay.com

皆様にお会いしてこのプログラムを紹介できることを楽しみにしております。

Time Out In New Zealand



Time Out In New Zealand (TONZ)は2011年3月11日に日本を襲った東北関東大震災、そしてそれを原因とする津波や原発事故の被災者の方々及び状況が落ち着くまでの短期間日本を離れたいと望まれ方々に一時的避難先を提供するためのプロジェクトです。

一時的非難先にはニュージーランド警察及びNew Zealand Sister Cityの審査を通ったホームステイを紹介しております。

今回サポートアワーキッズ、東北リリーフホームステイと協力して被災地の子どもたちに希望を与えるためのホームステイプログラムを作成しました。

これにより一人でも多くの子どもたちに笑顔が戻ることを心より願っております。

ホームステイ参加者のメッセージ



1. 皆さんが体験した3月11日の震災とそれに伴う周囲の状況(被災状況、なるべく詳しくお願いします。)
2. ホームステイプログラムへの志望動機について

私の大好きな祖母と祖父の家が津波地区にあり、家が津波で流されてしまいました。
 祖母も祖父も家にいたのですが津波の波が二階に上がったのですが、流されてしまい、亡くなってしまいました。
 幸い祖父の遺体はすぐに見つけ、祖母の遺体も家族みんなが道路が通れるようになってからすぐに探しに行き、
 見つかることができて、自分たちが火葬もし、今は私の家にお骨を置いてあります。
 最初、見つからないと聞いた時は、信じられなくて、遺体を見て、なかなか状況が受け入れられず、
 今でもとてもつらいです。
 ですが今、こうして生活できているのは、祖母と祖父が私たちを守ってくれたんだと考えて、頑張っています。
 私の将来の夢は、トマヤブリーガー、販売と、動物のことは何でもできるアニマルヘルプ・セラピスト
 という職業に就きたいと学んでいます。
 英会話のレベルは高いほうなのですが、話すのが好きで、外国へ行くのが大好きで、
 また他の国の文化や生活も学びたいのでホームステイプログラムに申し込みました。

私は3月11日の震災で両親、姉、祖父母を失いました。6人家族
 だった私は一人になりました。母と祖母は見つがりましたが両親
 と祖父は、今も行方不明です。家も流され、全てを失いました。
 3月11日の日、私は母と祖母と居て、地震のとき、3人で高い所
 に避難しました。しかし、そこにも津波が来ました。走って逃げ
 ました。しかし、母と祖母は私のために走り、波にのまれて
 死にました。それから私は必死で走り、山を登り助かることが
 できました。波に食づくのギリギリまで逃げたら私は間違って生きて
 いません。津波の日から3日間他の助かった人々と過ごしました。
 山火事もあり、バケツリレーで、皆で火を消しました。食べ物も
 ほとんどなく、かきの中に残っている食べ残さるものを分け合い
 食べました。余震も多くて、雪も降り寒くて、死ぬんじゃないか
 と思いました。何日も母と祖母のことを思い、泣き続けました。
 4日目の朝、山を越え、避難場所となっているPTAにたどりつしま
 した。そのとき、私は別の避難場所ではしばらく過ごし、祖母と
 再会しました。今は祖母と祖父の娘と暮らしています。
 あの日から3か月以上が経ちます。(はじめは生きていて何の意味
 があるのだろうか)とばかり思っていました。泣くことしかできず
 ました。それから、私は強く生きます。私が悲しんで、周りの家族も悲し
 んで天国に行かないと思います。やがて今になって、家族の分も頑張
 って前向きに生きていこうと思います。これからの人生が



とても不幸ですが私なら大丈夫だと言います。
 私には夢があります。それは、色々な国に行き、
 その国の文化を知り、人々と仲良くし、様々な
 体験をすることです。そして、私は海外に
 住みたいと考えています。この夢が叶うかわらないが
 は自分次第です。しかし、私は本気なので、
 この夢をあきらめません。
 今回のホームステイを通して、自分の夢に1歩
 近づくことができると思っています。本気の体験を
 することで、自分の中で希望が持てたり、元気を
 もらうことができると思っています。

寄附先児童養護施設

3月11日（金） 東日本大震災

〈東北の児童養護施設関連〉

児童養護施設総数 34 施設

損害の大きい施設（4施設）

- ・一関藤の園（岩手県）
- ・せんだんの家（児童自立援助ホーム・宮城県）
- ・旭ヶ丘学園（宮城県）
- ・大洋学園（岩手県）

建て替えが必要な程、被害が大きい施設
一関藤の園 生徒数55名
岩手県一関市山目字館2-5



一関藤の園



2月22日（火） ニュージーランド・クライストチャーチ地震

〈ニュージーランドの児童救済施設関連〉

建て替えが必要な程、被害が大きい施設
Cholmondeley 生徒数 28名



児童養護施設からのメッセージ

親愛なる皆様へ

この度の「次代の創造工房」様の呼び掛けにより「東日本大震災の被災児童へのチャリティーSupport Our Kids～ひとりじゃないよ」に賛同され、お集まり頂きました皆様には、いつも子どもたちのことをお心に留めていて下さり心から感謝し御礼申し上げます。

本来でしたら、皆様にお会いして、一言御礼の言葉を申し上げたいと思っておりましたが、震災以来、職員も子どもたちも余裕がなく、その日その日を過ごすのが精一杯で、本日は欠席させて頂きました。ご容赦ください。

3月11日の震災では、子どもたちに怪我もなくなりましたが、築32年の園舎に亀裂が多数入るなど大きな被害がありました。耐震の強度も不足していることから子どもたちも不安を抱え「今度地震が来たらどうなるの」などと聞いたりしてきます。まだまだ安心して生活できない状況にあります。震災から3ヶ月が過ぎ、一見、以前と変らない風景、営みに思えますが園舎の壁の亀裂等を見ますとやはりあの時のことが思い出されます。

3月の地震では、ライフラインが途絶えたことや余震が続いたことから施設の体育館で一週間の避難生活を余儀なくされました。不自由な生活の中でも、子どもたちは水汲みをしたり、小さい子の面倒をみたり、余震の時に備えて仮眠を取りながら交替で出入り口の開け閉めをするなど本当によく手伝ってくれました。その時に思ったことは、この子達がいるから私たちはこうしていただける。子どもたちから元気を頂いているということでした。改めて、子どもたちは私たち大人の希望であり、未来であることを感じました。

そして、震災以降、日本国内はもとより世界中の方々から心温まる支援物資やご寄附を頂戴いたしました。私たちは、たいへんな思いもしましたが「人と人との絆」や「人間のすばらしさ」を実感し、助け合うことの大切さや思いやりの心を学ぶ機会になりました。

これからも、皆様の善意に支えられていることを忘れることなく、子どもたちに寄り添いながら歩いていきたいと思っております。

本日、ここにお集まりの皆様の健康を願い、皆様の上に主イエス・キリストの豊かな祝福がありますよう心からお祈り申し上げます。

平成23年6月24日

児童養護施設 一関藤の園
園長 マウエル クリスタ

チャリティーにご参加の皆様へ

今日は、チャリティーにご参加いただきありがとうございます。

私たちのところにも寄附金が届けられると聞き、とても嬉しく思っています。

3月11日に発生した大震災から3ヶ月以上がたちました。しかし、未だに私たちの心から地震の恐怖心が消えず小学生は余震がくるたびに泣いています。怖くて泣いている小学生に「大丈夫」と言い聞かせながら余震が収まるのを待ちます。一日でも早く余震と不安から解放されたいです。震災の被害は、私たちの心だけでなく建物にも大きな被害がありました。地震発生から2ヶ月後には建替えが決定しました。建替えにはたくさんの時間と費用が掛かりますが、元の安全な藤の園に戻すためには必要なことだと思います。新しい藤の園が完成する頃には、私は退園しているけれど、遠くから見守り続けたいです。

震災があってから私たちはたくさんの方々に支援され、励まされました。私たちのために何かしたいという想いが伝わり、その方々のために自分たちのやるべきことを最後までやるのが私たちの恩返しと考えました。沿岸や原発で苦しんでいる方がいることも忘れず、私たちにできることを考えて行動していこうと思います。

考えることは誰にでもできるけれど、行動を起すのはすごいことです。たくさんの「支援」という行動が、私たちに笑顔を思い出させてくれました。

私たちは、ここにいる皆様の行動力に感謝します。

本当にありがとうございます。

一関藤の園 高校3年 K.I.



THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2011年(平成23年)

6月25日 土曜日

6/25 (土) 読賣新聞 朝刊

被災児、NZに招待

赤坂でイベント



東日本大震災で被災した子どもたちをニュージーランドのホームステイに招待しようと、港区赤坂のホテルで24日、チャリティーイベント「Support Our Kids」ひとりじゃないよ」が開かれた。会場には、発起人に名を連ねた日本、ニュージーランド両国の企業トップら約

660人が参加。先住民族マオリのパフォーマンスタレントや、ジャズトランペット奏者の日野皓正さんによるライブ演奏が行われた。この後に開かれたチャリティーオークションには、巨人の原辰徳監督のサイン入りユニホームなども登場。売上金などで被災地の子どもたちをニュージーランドのホームステイに招待するほか、一部を両国の児童養護施設へ寄付するとい

チャリティーイベントでは、マオリのパフォーマンスタレントが披露された(港区赤坂で)

ホームステイ報告



Support Our Kids ~ひとりじゃないよ



2011年6月24日（金）、ANAインターコンチネンタルホテル東京で被災児童を目的に実施したチャリティイベントの収益金で、東北の被災児童向けにニュージーランドホームステイプログラムを実施致しました。

- 期間：2011年7月27日～8月19日
- 場所：ニュージーランド オークランド
- 内容：
 - ・中学校、高等学校留学（英語及び必修科目）
 - ・文化交流（マオリ）
 - ・ロトルア観光ツアー
 - ・ファーム体験
 - ・ボランティア活動
 - ・アウトドアアクティビティ
 - ・ラグビー見学
 - ・社会見学など

■参加：50名



ホームステイ参加者感想

2011年、3月11日 東日本大震災が起きました。
その日、私は卒業式で学校が早く終わり友達の家で遊んでいました。その時こんなこと起こるなんて思いもせず、私は友達と楽しい時間を過ごしていました。今思うとこの時間は本当に楽しい時間で大切なかけがえのない時間でした。この時の私は幸せでした。
14時46分に地震が起きました。何が起っているのか分からなくて、何をしたいのかわからなくて「また地震だ。」くらいにしか思わなくて、本当に頭が真っ白でした。みんなが外に出て手をつないで丸くなりました。地震はおさまるところが強くなるばかりで近くに学校があったのでそこに逃げました。先生方が居たので良かったです。しばらくたつと津波がくるって言われたので屋外サンシャインに逃げました。みんなそこにいました。中には泣いている子もいて、みんな何が起っているのか分からなくて動揺していました。
私の住んでいた請戸は無くなりました。何もかもが。結局その日は帰れず避難所を住みました。その間も地震は続き夜も眠れません。次の日の朝放學能がもめたと聞き一斉に避難しました。本当にくやしいです。でも家族全員無事で、とても幸運な人だなと思いました。

中略

本当にこんな良い経験ができたのは皆さんのおかげです。ありがとうございます。言葉でいへばいいです。国境を超えても人の輪が繋がっているんだと思いました。日本に来る前は震災のことで暗い気持ちでしたが、この旅行のおかげで前向きになりました。この旅行はたくさんの方が開けていて、できていたんだと思いました。ニュージーランドは、とてもきれいな国で心の優しい国だと思いました。来てからは本当に良かったと思います。いつか私が並ぶ立場になって助けたい!と思いました。ここからは辛いことはまたたくさんあると思うけど、一歩ずつ前に進んでがんばって行きます!

※被災児童を対象にしたホームステイプログラムは、子どもたちの自立支援を目的に「明日に架ける橋プロジェクト」として継続していきます。今後は、震災直後東北に入り支援活動をして頂いた20カ国に対しホームステイを進めていく予定です。次回は、今年度の冬～春にアメリカへのホームステイを予定しています。